

## 市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	7月	26日	(記入者) 荒井 裕	
取材参加者	荒井	石井	垣内	久門	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	上北山村：瀧川寺の地蔵菩薩坐像				

所在地	吉野郡上北山村小椽(ことち)228				
所有者(取材 対応者)名	磯崎円大住職 (個人情報守秘)		連絡先 07468-3-0066		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：瀧川寺				
市町村 指定文 化財	彫刻	1躯	地蔵菩薩坐像 2003(平成15)年12月18日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	像底部墨書銘から造像の経緯が知られ、室町時代の基準作例として貴重である。				

## 文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	消火器設置。本堂の屋根に避雷針設置。	本堂が茅葺から銅版葺になったので火災防止に役立っている。
獣害対策	被害の有無、対策など シカ、イノシシ、サル等が出没する。最近はクマの出没があるらしい。被害がないので特に対策はしていないとのこと。	特になし。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	上北山村は奈良県の東南地域に位置し、東に大台ヶ原山地、西に大峯山脈に挟まれた自然豊かな村である。県内の自治体では最も人口密度が小さく、面積は十津川村に次いで広い村でもある。人口減少・少子高齢化の地域だが、境内に南朝最後の皇子自天王の墓があり、宮内庁が管理されている。毎年12月2日に自天王をしのぶ法要が行なわれ、だれでもお参りできるとのことで、地域の方々の寺への思いや団結力は強いと感じた。小椽地区の盆踊りが龍川寺の境内で十何年ぶりで開催されたとのことで活力復活のきざしもある。	

## 取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

現住職は景德寺のご住職のお弟子で龍川寺に入寺されて3年目ということで、寺自体の維持・管理は当面、問題はないと思われる。本堂の雨漏りが少しあるとのことで早期の対処をお願いしたい。自然豊かな平家・南朝ゆかりのある歴史と文化のある地域を、これからも次世代に伝えていただくことを願う。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	7月	26日	(記入者) 荒井 裕	
取材参加者	荒井	石井	垣内	久門	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	上北山村：瀧川寺の地蔵菩薩坐像				

写真撮影許可済み

文化財指定名 地蔵菩薩坐像	
文化財 (正面写真)	文化財(上北山村のホームページから)
	
境内にある自天王の墓 (宮内庁管理)	小椽川対岸からの龍川寺
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域の歴史や特徴を記入
<p>南朝ゆかりの龍川寺の本尊として、秘仏同様に護持されてきた。桧材寄木造り玉眼入りの像は像高26.5cmと小像ながら個性的な特徴のある顔立ちで力強さを感じる。像底部に1398（応永6）年に制作され、1843（天保4）年に修理されたことが墨書きされている。造像の経緯が知られ、室町時代の基準作例として貴重である。</p>	<p>吉野七龍泉寺のひとつで真言修験の法脈を伝える。南北朝合一後、再び対立で後南朝方は1443（嘉吉3）年に三種神器の一つ神璽（勾玉）を奪って吉野に持ち帰り、川上村に居た後龜山天皇の玄孫自天王は神璽を奉じてこの寺を北山宮御所に。しかし、自天王は1457（長祿元）年、赤松家の残党に殺害され、後南朝が終わる。江戸時代に曹洞宗となり、明治時代に宮内庁の陵墓として南帝山龍川寺と号す。（龍川寺案内文などから）</p>